



博物館だより

No. 212 2012. 12

ミニミニマイズ

平成24年度企画展終了

平成24年度企画展「山本作兵衛氏 炭坑記録画展～ユネスコ世界記憶遺産に登録された石炭採掘現場の様子と坑夫の生活風景画～」は11月25日(日)終了いたしました。

秋田で、世界記憶遺産に登録された記録画の複製や、貴重な原画を鑑賞できるとあって、県内各地や近隣県からも多くの見学者が訪れました。20日間という短い開催期間でしたが、新聞やテレビにも取り上げられ期間中の見学者は928人と好評を博しました。

アンケートより

- 作兵衛さんの後世に残そうとする意欲がすばらしい。昔の人の働きによって今の日本があるのだと思った。
- 山本作兵衛の原画を見たかった。すばらしい絵でした。生と死を感じるもので真剣な生き方がよかったです。
- 生き生きとした描写とその記憶力に驚きました。原画もあり感謝です。
- 作兵衛さんの絵はすばらしいものでした。3階の模型展示を見ていっそう画の背景を深く知ることができたと思います。
- この人のものすごい描写力、筆力に感嘆するばかりです。



1枚1枚の画の前で、時間をかけてじっくりと見入っている見学者の皆さん。50枚の複製画をぐるりと周囲に配置、中央の展示ケースには原画を展示しました。また左側の休憩コーナーでは山本氏関連の放送番組をDVDで再生放映しました。

イルミネーション点灯中

11/21(水)～1/31(木)

16:00～19:00

2年ぶりに鉱業博物館正面を彩るイルミネーションが復活しました。11月21日(水)、小川工学資源学研究科長、岡見事務長、西谷博物館長が参加して点灯式が行われました。

屋上からツリー型に伸びたライン上に瞬く光がきれいです。来年1月いっぱい点灯しますのでどうぞお楽しみください。



点灯のスイッチを押す岡見事務長、小川研究科長、西谷館長(左から)



サイエンスボランティア研修会

11月8日(木)、平成24年度鉱業博物館サイエンスボランティア研修会を開催しました。

今回は強首地震とも呼ばれる秋田山北地震の痕跡と、美郷町(旧千畑町)の千屋断層の露頭やその周辺の変動地形を見学しました。

このコースは工学資源学研究科の学生のフィールド研修にも組み込まれており、奥羽山脈西側の田沢湖南部から横手盆地を経て南北に走る活断層の実態や、その活動によってもたらされた特色ある地形を観察することができます。西川 治 鉱業博物館専任講師の解説とともに過去の大地震の痕跡を巡りながら、改めて地殻活動のスケールの大きさを実感しました。



千屋断層見学の後で



秋田山北地震では、土砂の崩壊により沢がせき止められて堰止湖(せきとめこ)が出現した。その水を抜くため作られた手掘りのトンネルが今も残っている

千屋断層とは

1896年(明治29年)、秋田・岩手県境の山間部にマグニチュード7.2の大地震、陸羽地震が発生した。このとき地震を起こした断層の一部が旧田沢町から美郷町・六郷東部へと40kmにわたって地表に現れた。この断層は山側の土地が隆起して平野側に乗り上げる逆断層で、陸羽地震によって出現した断崖の高さは最大約35mにも達し、日本最大級の規模となっている。

千屋断層は東北地方の断層活動を知る上で、きわめて学術的価値が高いことから平成7年国の天然記念物として指定された。



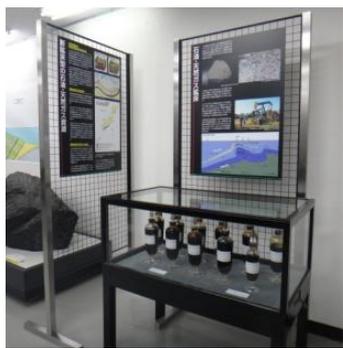
逆断層

地震によって写真奥の山側の地面が隆起した。露頭部分は風化が進んだためシートで覆い保護している



話題の天然資源

シェールオイル / メタンハイドレート



燃料鉱床に関する展示コーナー。石炭鉱床から在来型の石油・天然ガス鉱床、そして現在形成されつつある海底熱水鉱床まで網羅して解説している。手前は原油サンプル

10月初旬、秋田県由利本荘市の鮎川油ガス田で日本で初めて「シェールオイル」が試掘されました。シェールオイルは新たなエネルギー資源として世界的に期待が高まっており、この話題はテレビや新聞等で大きく報道されました。

また同月下旬には、シェールオイルと同様に次世代エネルギーとして注目される「メタンハイドレート」も秋田沖など日本近海の広い範囲で発見されたというニュースが流れました。輸入の天然ガスに代わる国産エネルギー資源としての可能性も秘めています。

当館1階の鉱床に関する展示コーナーでは、〈新鉱床型の石油・天然ガス資源〉

のパネル展示の中で、シェールオイルやメタンハイドレートを取り上げて詳しく解説しています。今スポットの当たっている次世代エネルギーについて最先端の情報に触れることができます。アンケートでも「シェールオイルに関する展示が良かった」「最新の事象を取り上げている」といった声が寄せられ、来館者の注目を集めています。

※シェールオイル
取り出すことが難しい頁岩中に含まれている原油の一種。

※メタンハイドレート
天然ガスの主成分メタンと水が結合した固体物質



自転車発電装置がクリスマスバージョンになりました

工学資源学研究科技術部の皆さんが楽しい仕掛けを作りました。自転車発電装置の自転車のペダルを漕ぐと発電し、その電気のパルスをLEDの電飾が流れます。クリスマスツリーの電飾が灯ります。見学者の皆さんにも好評です。



天体望遠鏡を使ってみよう

天体望遠鏡を使って太陽系の惑星写真を見てみませんか？ 2階の「太陽系の中の地球」コーナーでは壁面に火星・水星・木星・金星・土星などの写真を掲示しています。天体望遠鏡で覗くと、大きさなど実際に夜空で実物を観察しているように見えます。木星の縞模様や神秘的な土星の環なども観察できますよ。実習生が操作方法をわかりやすく示した手引書を作成しましたので、ぜひ惑星観望にチャレンジしてみてください。



休館のお知らせ

12/26(木) ~ 1/5(土)

鉱業博物館は上記日程で休館いたします。1月6日(日)からは通常通り開館します。皆様の来館をお待ちしております。

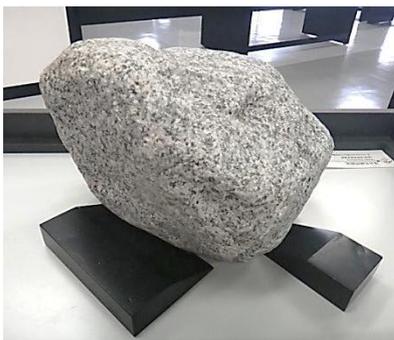
標本の紹介 世界最古の石と生まれたての石

2階の岩石コーナーでは、世界最古と世界最新の2つの岩石を見比べることができます。

大陸の中央部には長い間造山活動が起こっていない安定した地殻が存在していますが、このような場所には太古代(25億年以前)の古い岩石が分布しています。これまでに見つかった地球で最も古い岩石は、カナダ北西部のアカスタ片麻岩で39~41億年前のものとされています。片麻岩は大陸の地殻を構成する岩石であり、約46億年前に地球が誕生してからわずか数億年で陸地が形成されたことを示しています。

一方、造山活動が盛んに起きている地域では新しい地殻が生成されています。日本列島もその一つで、比較的新しい時代の岩石が広く分布しています。飛騨山脈の滝谷花崗閃緑岩は、

100~140 万年の年代値を示す世界で一番新しい花崗岩類です。花崗岩はマグマが地下深部でゆっくり固まってできた岩石です。このような若い年代は、飛騨山脈が短い期間に急激に隆起を起こしたことを意味しています。



世界で最も新しい滝谷花崗閃緑岩
産地：長野県穂高連峰
140 万年前の年代値を示す深成岩



世界最古のアカスタ片麻岩
産地：カナダ ノースウエストテリトリー (神奈川県立生命の星地球博物館から借用)
変成作用により縞模様が発達している。当館で展示しているものは39.6億年の年代値を示している



日本最古の石も展示しています
日本最古の片麻岩
産地：岐阜県加茂郡七末町
約19億年前のもの